Vol. 31

発行／平成24年11月30日
編集／四国の川を考える会

水紋

すいもん

公渕池のほとりは 憩いの場

高松市の東部を流れる春日川の上流に、貯水量では香川県で四番目を誇るため池、公渕池がある。

今から約八百年前、屋島源平合戦に敗れた平家の公達は、追っ手から逃れるため山道を急いでいた。すると、近くの淵からお香のかおりがする。公達は思わずその淵をのぞき込んだ。そこには、都の我が屋敷が見え、友が自分を誘う声がした。疲れ果てていた公達は、これでやっと帰れると思い、吸い込まれるように淵に身を投げた。以来、この淵を公淵と呼ぶようになったという。

時は過ぎ、江戸時代後期、淵には堤が築かれ、地域の田を潤すほどの大池へと変遷を遂げ、公淵は公渕池と名を変えた。

今、公渕池は公渕森林公園として灌漑用水源の役割を担いつつ、花と緑に囲まれた憩いの水辺、桜の名所として人々に親しまれている。

写真は、「四国みずべ八十八カ所」の一つ、香川県高松市の公渕池

特集　南海トラフの巨大地震

今夏、「最悪三十二万三千人死亡」という衝撃的な数字が発表されました。これは、東海・東南海・南海地震が三連動する「南海トラフ巨大地震」について、国の有識者会議がはじき出した被害想定です。

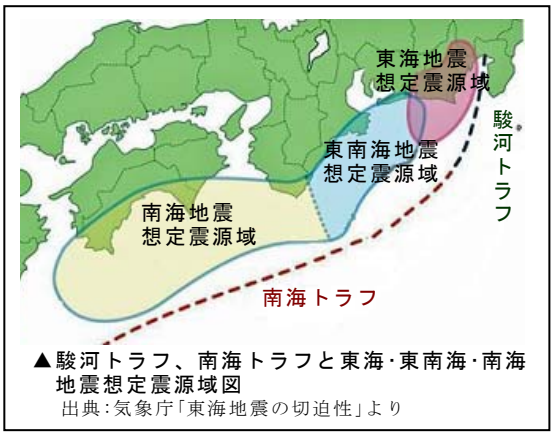
死者数は震源や発生時間、季節、天候によって変わるため、条件を変えて九十六通りのケースを想定。最も人的被害が多くなったのは、風の強い冬の深夜に東海地方が大きく被災する地震が起きた場合、津波で二十三万人、建物倒壊で八万二千人、火災などで一万人の計三十二万三千人の死者が出るとされています。

◆南海トラフの巨大地震とは？

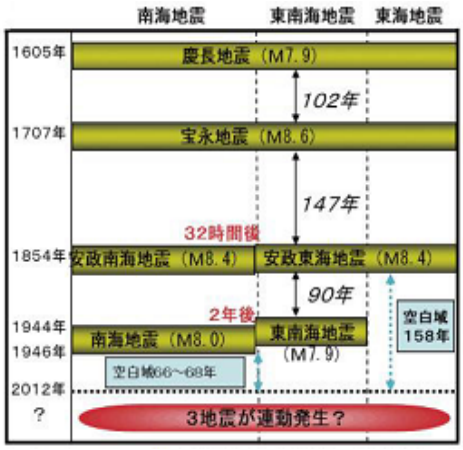
南海トラフ沿いで東海・東南海・南海地震が三連動して起こる可能性のある地震のことです。

これらが連動して発生した場合、巨大地震となる可能性があります。

南海トラフ付近では、過去百年から百五十年おきにマグニチュード八クラスの大地震が起きていますが、駿河トラフと付近は直近の大地震から百五十年以上が経っているため、駿河湾付近で起こる東海地震については「いつおきてもおかしくない」と言われています。



▲駿河トラフ、南海トラフと東海・東南海・南海地震想定震源域図
出典：気象庁「東海地震の切迫性」より



▲江戸時代以降に起こった東南海・南海地震

◆今後三十年の地震発生確率は？
※地震調査研究推進本部／文部科学省二〇一二年公表データ

・東海地震
八十八パーセント程度
（マグニチュード八程度）

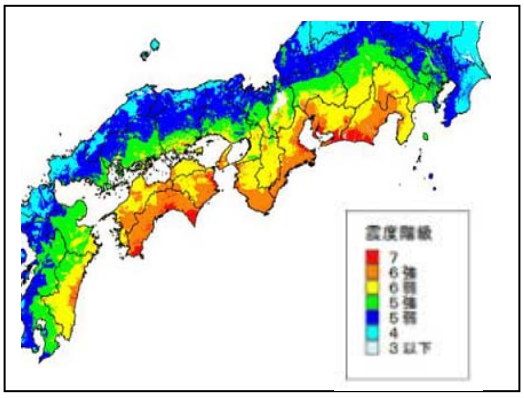
・東南海地震
七十パーセント程度
（マグニチュード八・一程度）

・南海地震
六十パーセント程度
（マグニチュード八・四程度）

◆もし、地震が起こったら？

◇揺れに伴う被害

最悪の場合、左記のように推定されます。



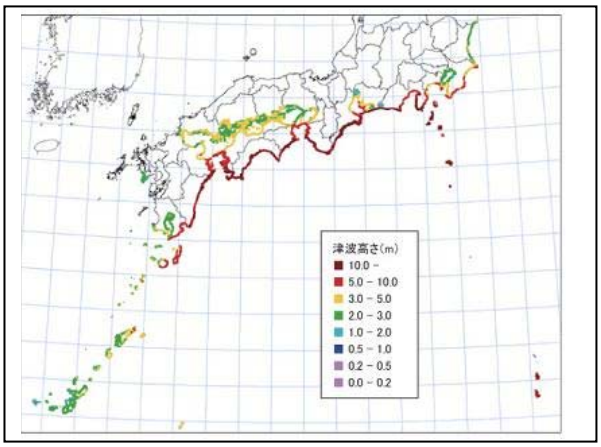
特に、赤色、橙色、黄色で示されている所では、揺れにより建物や道路が崩れ、死傷者が出るなど、大きな被害が出ると心配されています。

四国でも、震源に近い南側の揺れが大きくなると予想されます。

◇津波による被害

南四国を中心に巨大な津波が来襲し、津波の高さが十メートルを超える地域や地震発生後十分以内で津波が到達する地域も予想されます。

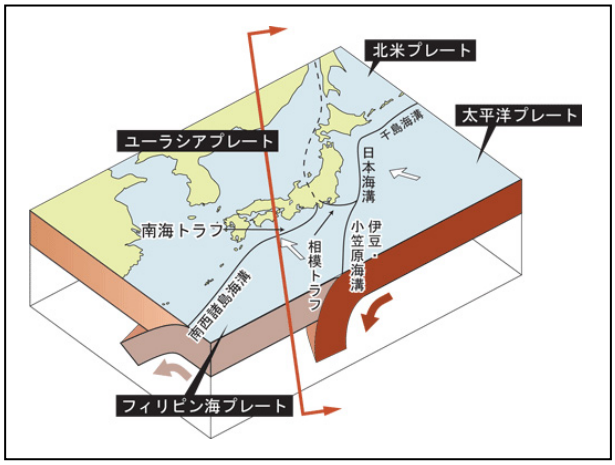
瀬戸内海側でも三メートル近くの津波が来ると予想されています。瀬戸内海だからといって安心はできません。



※このページの図は、平成二十四年版防災白書から引用したものです。

◆巨大地震発生の仕組み

南海トラフで発生する地震は、主に四国や紀伊半島が乗っている陸のユーラシアプレートの下へ太平洋側の海のフィリピン海プレートが沈み込むことに伴って、これら二つのプレートの境界面がずれる（破壊する）ことにより発生します。

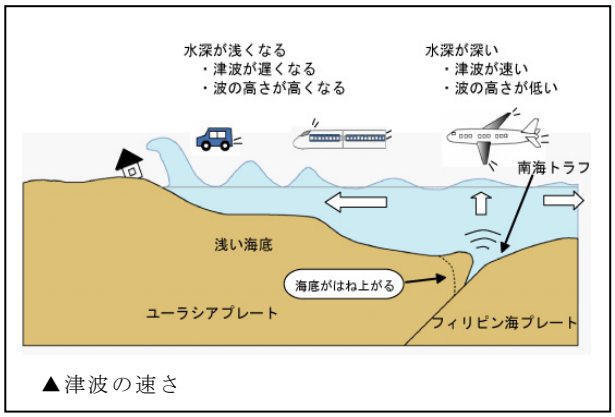


◆津波の速さはどれくらい？

津波の速さは、水深の深いところほど速くなります。例えば、東南海・南海地震が起こる南海トラフのような水深の深いところでは、津波はジェット機なみの速さで進みます。

海岸付近の水深が浅いところでは、スピードは遅くはなりますが、それでも水深が十メートル程度であれば時速約四十キロメートルと自動車なみの速さで進みます。

津波から命を守るためには、津波が海岸に近づいたのを確認してから避難を始めたのでは間に合いません。津波警報が発表されたら、実際に津波が見えなくても、速やかに高い所へ避難しましょう。



▲津波の速さ

◆地震への備え

東南海・南海地震では、四国の広い地域が被災すると想定されます。直後の災害から身を守るために一番大事なことは、「自分の命は自分で守る」ということです。

いざという時に備え、適切な行動が出来るよう日頃から準備をしておきましょう。

【地震への備え十か条】

★日頃からの備え五か条

第一条　あわてず行動できるように家族と日頃から話し合おう！

第二条　地域の防災訓練やシンポジウムに積極的に参加しよう！

第三条　家具などの転倒防止、家の耐震対策など、安全を確保しよう！

第四条　危険箇所や避難場所の確認など、防災知識を身に付けよう！

第五条　非常用品の備えを万全にしよう！

★地震が発生した場合の五か条

第六条　落ち着いて身の安全を確保しよう！

第七条　あわてず火の始末をしよう！

第八条　速やかに安全な場所へ避難しよう！

第九条　近所と協力し、助け合おう！

第十条　正確な情報をつかむようにしよう！

◆災害時の必需品

地震発生後は、ライフラインの断絶などで消防機関等の救出、緊急物資の輸送は困難になります。

食料・飲料水は、最低三日分は準備しておきましょう。

☆非常食の例

・水
・カンパン
・缶詰
・お米
・お菓子
・インスタントラーメン

ケガの応急手当をするための救急薬品などは準備しておきましょう。

☆持ち出し品の例

・救急箱
・ラジオ
・ヘルメット
・懐中電灯
・手袋（軍手）
・毛布
・ナイフ・缶切り
・現金・印鑑・通帳
・保険証
・くつ

災害時の必需品は、持ち運ぶときに両手が使えるようリュックサックなどにまとめておきましょう。

川のトピックス

もしもに備えて、「平成二十四年度 土器川水防演習」開催

五月二十日（日）、香川県丸亀市垂水町地先の土器川左岸（土器川生物公園前）河川敷において、一般の方々も含め、千二百人以上の参加のもと、平成二十四年度土器川水防演習が開催されました。

▲緊急災害対策派遣訓練

演習は、大規模洪水が発生することを想定し、国土交通省、香川県、土器川流域の関係市町と各水防（消防）団、警察、陸上自衛隊、日本赤十字社、四国電力、ＮＴＴなど関係機関が、土器川の洪水被害の防止・軽減、早期復旧のための「水防工法の習得、情報伝達、人命救助、ライフライン復旧等」を中心に演習を行いました。

演習会場では、自主防災会や香川大学工学部の学生、一般参加者に、降雨体験、家庭で出来る水防工法やロープワークなどを実際に体感しました。

▲月の輪工

ダムっておもしろいね！「中筋川ダム見学会」を開催

五月二十二日（火）、宿毛小学校の四年生五十名が社会科見学で中筋川ダムを訪れました。

児童たちは中筋川ダムに興味津津。ダムの仕組みや役割についてスライドや模型を使って解説を始めると、職員の話に身を乗り出して聞き入っていました。

▲スライドや模型を使っての説明に興味津々

特に、職員手作りの模型で発電の仕組みの説明では、実際に高いところからホースで水を流して水車を回転させて発電させ、ライトを点灯させたり、音楽を流したりする様子には歓声があがっていました。

また、ダム内部の見学では、最下層に設けたプラムラインに関心を持ったようで、ダムに貯めている水の水圧によって起こるダムの傾きを計測している装置の上部から、重りを垂らした約五十メートルのピアノ線が続いている穴を見上げていました。

屋外に出て、下からダムを見上げた時に階段状のダムのデザインに、「誰が設計したんですか？」という質問がありました。

終始、元気で活発な社会科見学でした。

▲「誰が設計したんだろう？」

自然豊かな湿地環境を再生「第５回広瀬霞自然観察会」開催

六月六日（水）、広瀬霞において、松山河川国道事務所、重信川の自然をはぐくむ会の主催で、五回目となる「広瀬霞自然観察会」が周辺住民と行政関係者の参加のもと開催されました。

重信川中流にある広瀬霞（松山市南高井町）は、盛土により湿地環境が喪失したことで、セイタカアワダチソウなどの外来種が繁茂し、ゴミが投棄されるなどして環境が悪くなっていたものを従来の自然豊かな湿地環境に再生しようと、自然再生事業として平成十八年度に事業着手し、平成十九年度に完成、五年が経過しました。

今回で五回目となる自然観察会では、○湿地池及び周辺に植物が生育してきた一方で、ツルヨシが水面をすべて覆ってしまいそうな状況となり、何らか手を加えることが必要。○湿地池の中にブラックバス、ブルーギルなどの特定外来生物が生息している。○流入してくるゴミが多い。などの問題点が報告されました。

報告後、松山東雲短期大学松井教授からは、広瀬霞に生育しているコマツヨイグサ、ヘラオオバコ、オランダガラシ、ヒメジョオンなど、外来種がほとんどですが、適切に管理されている環境下であればそれほど問題はないことや、ツルヨシ抑制の必要性などについて説明がありました。

▲三宅講師による特定外来種（魚類）調査

また、愛媛大学三宅講師からは、湿地池に生息するウナギ、モツゴ、ギンブナ、シマドジョウ、ナマズなどを捕獲し、魚類環境について説明がありました。幸いにして、ブラックバス、ブルーギルは確認されませんでした。

▲みんなで清掃！
ツルヨシの除去も行いました。

その後、参加者全員で清掃、除草、湿地池を覆うツルヨシ等の除去が行われました。

きれいになったよ！「土器川一斉清掃」実施

七月一日（日）、土器川沿川の住民たちが土器川の一斉清掃を行いました。

土器川一斉清掃は、河川愛護月間の行事として、丸亀市とまんのう町との共催で開催されました。

一斉清掃は、土器川における恒例行事で、今年で二十五回目となります。当日はあいにくの雨の中、朝早くから会場周辺の自治会の方や河川利用者など、約二千八百名の方々が参加し、約二・二トンのゴミを分別収集しました。

ゴミの量を過去と比較すると、近年はほぼ横ばい傾向ですが、数年前と比較するとおよそ半分に減少。日頃から各公園等を利用する地域の皆さんの地道な取り組みが結果に表れてきています。

清掃が終了する頃にはほぼ雨は上がり、きれいになった土器川生物公園で丸亀市主催の、〝川の日に「土器川生物公園」で自然と遊ぼう！〟が開催されました。大勢の子供たちが七夕飾りを作ったり、ネイチャーゲームをしたり、魚のつかみ取りなども行われ、楽しい「川の日」となりました。

土器川では、「リフレッシュ香の川パートナーシップ」など、ボランティアによる協力のもと、清掃活動も継続的に実施されていますが、ゴミ等はまだまだ多く見られます。今回のような行事を通じ、地域の皆さん一人一人が、ゴミを捨てない、捨てさせないを実践し、ゴミのないきれいな土器川づくりを目指しています。

吉野川を満喫！「二〇一二吉野川フェスティバル」を開催

七月二十七日（金）から二十九日（日）にかけ、徳島市内の吉野川橋南岸河川敷広場において「川を親しみ、川の魅力を語り、川と遊ぶための三日間」をテーマに、「二〇一二吉野川フェスティバル」が開催されました。

この吉野川フェスティバルは、今年で二十四回目を数え、地元NPOや行政機関からなる、吉野川フェスティバル実行委員会が中心となって、毎年夏に開催されています。

フェスティバル当日は晴天に恵まれ、吉野川河川敷に設けられた特設会場では、様々なアーティストによるライブコンサートやバーベキュー、花火大会などたくさんの催し物が繰り広げられ、多くの来場者で賑わっていました。

また、「東日本大震災パネル展」では、東日本大震災に関するパネルの展示を、「建設機械と遊ぼう」のブースでは建設機械の搭乗体験が行われました。

二十八日（土）、二十九日（日）には鳴門教育大学の松井先生、福山平成大学の小谷先生を講師に迎えての「水辺の安全教室」が行われました。参加者は、ライフジャケットの着用の仕方、着衣泳など、水辺の危険から身を守る方法を体験しました。

また、本フェスティバルは、ごみゼロを目指した環境配慮のエコイベントでもあり、二十八日（土）には吉野川クリーンアップ大作戦が実施され、吉野川橋から河口周

辺までの約四キロにわたり清掃活動も行われました。

ペットボトルで救助？「親子水難事故防止教室」を開催

七月二十九日（日）、四万十市の赤鉄橋（四万十川橋）上流左岸側の河原で、小学生三十人と大人十人が参加して『親子水難事故防止教室』が開催されました。

地元防災関係機関（水難事故防止連絡会）と『四万十川水中探偵団』（四万十川流域住民ネットワーク）が連携し、水難事故の防止を目的に、川で遊ぶ楽しさを体験しながら水難事故から身を守る方法について親子で学んでもらおうと平成二十二年から開催され、今年で三年目となります。

この教室に参加した小学三年から年生の児童は、箱メガネによる水中調査、シュノーケリング教室、激流下り、カナデイアン・カヌーを使った「組み立て式飛込み台」からの飛び込み、カヌー、水中宝さがしを楽しみました。

特に、カヌーを使った飛び込み台は大人気で、大歓声が上がっていました。

大人は、水難事故から身を守るために、消防署によるＡＥＤの講習、警察署による発射銃及びロープによる救出デモが披露されました。

その後、ロープをつけたレスキューキャップをペットボトルに取り付け、川中に投げて水難者を救出する訓練も実施しました。

今回は天気にも恵まれ、遊びも訓練も盛りだくさんの中、参加した子供や大人たちには川で遊ぶ楽しさと水難から身を守る術を十分に学習していました。

バザーや花火大会で大盛況！「柳瀬ダム 湖水まつり」開催

第二十六回湖水まつりが八月四日（土）、金砂湖畔公園（柳瀬ダム金砂湖）において開催されました。

この祭りは、宇摩地域の発展の礎となった水資源開発に伴うダム水源地域への感謝の気持ちと、嶺南地域の活性化の一助として始められたものです。

催し物として、各種バザー、エレクトーン演奏、カラオケ大会、ソプラノ歌手スペシャルステージ、フラダンス、花火大会などが行われ、約三千人の方々を魅了し、大盛況でした。

また、柳瀬ダム周辺で採集したカブトムシの展示に子ども達は大喜びしていました。

来年は、富郷ダム法皇湖の「てらの湖畔広場」で開催される予定です。

「四国堰堤ダム八十八箇所巡り」札所の他に番外と別院を合わせて百八

『四国酒蔵八十八箇所巡礼』、『四国温泉八十八箇所巡礼』に続く、四国八十八箇所巡礼シリーズ第三弾は『四国堰堤ダム八十八箇所巡礼』!!

「堰堤」とは、「ひつぎ」や「つつみ」いわゆる「ダム」のこと。こんなマニアックな八十八箇所を巡ってどうすんじゃと思うでしょ。私もそう思います。（笑）

一応、私たちは世にいう「ダムマニア」ではありません。そのへんにいる一般人であり、これは四国の風景の一部としての堰堤を巡る巡礼の旅の企画であります。

四国の堰堤はほとんどが秘境に近い人里に隣接しています。四国のダムを巡礼することは、すなわち、四国の山里紀行を見て廻ることと同じことです。

もちろんダムマニアの方も歓迎です。この程度では物足らないかもわかりませんが、それはそれでより深く探求して頂いてかまいません。マニアの皆様向けには、委員の中で特に選抜された「特別天然記念物ガチ委員衆」が別途お相手させていただきます。泣くなよ。（笑）

北海道や日本アルプスと違って、四国は狭くすべてが日帰りダムです。その気になれば一日に五、六箇所は余裕で巡れます。

また、一緒に「沈下橋」や「寺社」等の山中の史跡を見て回ることもできます。至極健康的かつ人間的な巡礼です。

人の造りしものの中でも、ダムは百年単位の稼働を目された構築物であります。自然を破壊してではなく、月日とともに自然の中に溶け込んでいった四国の堰堤をあらためて眺めてほしいと思っております。

公式稼働開始です。札所のほかに番外と別院も入れて百八のすべてに判子を設置完了し、かつ表示済です。

『四国堰堤ダム八十八箇所巡礼』運営委員会

◆詳しくはホームページで！
http://Dam88.info
四国 ダム 88 で検索

地域防災力の向上に役立つ『四国災害アーカイブス』部分運用開始

㈳四国建設弘済会では、『四国災害アーカイブス事業』を進めています。

これは、過去に四国各地で発生した主要な災害に関する情報を収集・整理し、地域防災力の向上に向け、できるだけ多くの人々に活用していただけるよう、インター

ネットを通じて情報を提供するものです。

本格的な運用は、平成二十六年四月を予定していますが、東日本大震災を踏まえ、地震・津波の情報を七月二十日から先行的に提供しています。

また、この災害アーカイブスの活用により、身近な所の災害の歴史、災害に立ち向かってきた歴史、災害にまつわる石碑や痕跡などが各地にあることをお伝えできればと考えています。皆さんの身近に、四国の過去の災害に関する文献、史料や映像などがありましたらご連絡ください。

◆連絡先

四国災害アーカイブス事務局

（社団法人 四国建設弘済会内）

高松市福岡町三-十一-二十二

電話０８７-８２２-１６７６

◆http://shikoku-saigai.com

民衆のために生きた土木偉人「宮本武之輔」の胸像建立

宮本武之輔は、明治二十五年、松山市興居島の由良町に生まれ、東京帝国大学工学科を卒業後、内務省土木局に技術官僚として入省。

昭和五年七月、宮本が「民衆のために生きた土木偉人」といわれる出来事が起こります。

新潟県の信濃川・大河津分水可動堰再構築建設工事中において、工事も終盤に差し掛かった頃、集中豪雨による信濃川大洪水の危険が迫りました。宮本は被害を防ぐため、信濃川と工事現場を仕切っていた堤防を独断で破壊し、地域住民を守りました。

その後も技術立国を目指し、官僚として技術者の地位向上に取り組むなど、その功績は計り知れないものがあります。

しかし、愛媛県では余り知られておらず、宮本武之輔を偲び顕彰する会ではこれまで、宮本の残した三十一年にわたる日記を読み解き、講演などを通して人柄や功績を広める活動をしてきました。

宮本が没して七十年、宮本武之輔を偲び顕彰する会の設立五周年記念行事として、郷土の誇れる土木偉人・宮本武之輔の胸像を建立しました。胸像は、西条市の彫刻家に依頼し、十一月十八日の土木の日に合わせ除幕式が行われました。

平成二十四年度 定期総会報告

［四国の川を考える会事務局］

平成二十四度の総会を七月九日、高松市において、会員百六十六名のうち四十七名が出席、九十一名の委任状をもって開催しました。

四国の川を考える会
平成二十四年度 定期総会次第

一、開会
一、会長挨拶
一、来賓挨拶
一、議事
　1 平成二十三年度事業報告
　2 平成二十三年度決算報告及び監査報告
　3 平成二十四年度事業計画(案)及び予算(案)
　4 役員の改選
　5 その他
一、閉会
一、講話
　「地震と河川」
　四国地方整備局長　川﨑　正彦 氏
一、講演
　「四国の水害史料や伝承を活用した防災啓発について」
　財団法人日本建設情報総合センター
　四国センター長
　工学博士　松尾　裕治 氏

1 平成二十三年度事業報告

(1) 会議

①運営幹事会（第一回）
開催日／平成二十三年四月二十六日(火)
場　所／サンポートホール高松　会議室
議　題／役員会・総会開催について
　その他

運営幹事会（第二回）
開催日／平成二十四年三月二十一日(水)～二十八日(水)
場　所／持ち回り会議
議　題／平成二十四年度助成事業について
　その他

②役員会
開催日／平成二十三年五月二十五日(水)
場　所／サンポートホール高松　会議室
議　題／平成二十三年度総会について
　その他

③総会
開催日／平成二十三年六月二十九日(水)
場　所／高松市　マリンパレスさぬき
議　題／平成二十二年度事業報告
　平成二十二年度決算報告及び監査報告
　平成二十三年度事業計画(案)及び予算(案)
　役員の改選

(2) 広報誌・機関誌の発行

①広報誌『あめんぼ』WEB版
発行／平成二十三年九月
すこやか川散歩　安田川

②機関誌『水紋』Vol30 WEB版
発行／平成二十三年十月三十一日

(3) 広報事業と助成事業

区分	イベント名	河川名	場　所	主催者	実施状況
広報事業	第29回 ファミリーハゼ釣り大会	吉野川	名田橋～ 吉野川河口一帯	共催：徳島県釣連盟、 四国の川を考える会	平成23年10月9日(日) 490名参加
助成事業	那賀川源流碑開き	那賀川	那賀川源流碑及び 源流モニュメント周辺	那賀川 アフターフォーラム	平成23年4月17日(日) 約150名参加
	土器川生物公園魚類調査及び清掃	土器川	土器川生物公園	土器川生物研究会	平成23年10月22日(日) 平成24年3月23日(土) 63名参加/2回
	重信川クリーン大作戦	重信川	重信川流域	重信川の自然をはぐくむ会 重信川エコリーダー	平成23年6月4日(土) 430名参加 平成23年10月15日(土) 730名参加
	四万十川水辺八十八ヵ所巡り	四万十川	四万十川流域	四万十川自然再生協議会	平成23年11月26日(土) 20名参加
	宮本武之輔を顕彰する会への活動	－	愛媛県松山市内	宮本武之輔を顕彰する会	平成23年6月3日(水)～ 平成24年3月30日(金) 講演会・定例会等約300名参加

(4)その他
ホームページリニューアル
平成二十四年二月に「四国の川を考える会」のホームページをリニューアルしました。
URL:http://www.shikoku-river.net/

2 平成二十三年度監査報告

監査報告

平成23年度監査報告

「四国の川を考える会」会則第11条4項の規定により、
監査を執行したので報告する。

記

監査執行日　平成23年4月16日
監 査 内 容　平成23年度本会経理状況
意見　本会会計に係わる収入及び支出の状況並びに各帳簿書類は正確であり、金銭残高については、貯金通帳と合致していることを認める。

監事　香川県河川協会　西山 淳一
電源開発㈱西日本支店　鎌田　光

決算期間
自 平成二十三年四月一日
至 平成二十四年三月三十一日

3 平成二十四年度事業計画(案)

(1)事業計画(案)
①機関紙『水紋』をホームページにて公開
②ホームページを活用し、広報誌『あめんぼ』の情報発信を行う。
③広報事業として「吉野川ファミリーハゼ釣り大会」を行う。
④助成事業として数件の助成を行う。
⑤シンポジウム等への参加
会の目的にあったものに参加する。
⑥四国堰堤八十八箇所完走認定 新規事業(案)

(1)-③・④広報事業と助成事業(案)

区分	イベント名	河川名・場所	主催	開催日
広報事業	第30回 ファミリーハゼ釣り大会	吉野川 名田橋～吉野川河口一帯	徳島県釣連盟 四国の川を考える会	平成24年10月7日(日)
助成事業	那賀川源流碑開き	那賀川 那賀川源流碑及び源流モニュメント周辺	那賀川 アフターフォーラム	平成24年4月15日(日)
	土器川生物公園生物調査及び清掃	土器川 土器川生物公園周辺	土器川生物研究会	2回/年 平成24年9月～11月 平成25年2月～3月
	重信川クリーン大作戦	重信川 重信川流域	重信川の自然をはぐくむ会 重信川エコリーダー	2回/年 平成24年6月2日(土) 平成24年10月20日(土)
	四万十川水辺八十八ヵ所巡り	四万十川 四万十川流域	四万十川自然再生協議会	平成24年6～11月の期間内3日間(3回)
	宮本武之輔を顕彰する会への活動	愛媛県松山市内	宮本武之輔を顕彰する会	定例会・講演会 (約300名)

4 役員の改選

●役員
改選対象は八名で、継続就任で承認。

役職	役員名		改選
会長	鈴木 幸一	国立新居浜工業高等学校 学校長	改
副会長	三谷 健	いであ㈱四国支店高松営業所	
顧問	三井 宏	徳島大学名誉教授	改
理事	井下 俊作	四国大学短期大学部教授	改
理事	菊池 弘美	NPO法人それいけ夢工房 代表	
理事	公文 洽夫		
理事	福田 昌史	㈳四国建設弘済会 理事長	改
理事	福原 吉宗	四国治水期成同盟連合会 幹事長	改
理事	加藤 均	四国電力㈱電力輸送本部 水力部総括グループリーダー	改
理事	大澤 敏之	㈶河川情報センター 高松センター所長	
監事	西村 淳一	香川県河川協会事務局	改
監事	池田 幸宏	電源開発㈱西日本支店 支店長代理	改

●運営幹事

運営幹事名	
加藤　均	四国電力㈱電力輸送本部水力部 総括グループリーダー
工藤　建夫	㈳四国建設弘済会　専務理事
池口　幸宏	電源開発㈱西日本支店　支店長代理
阿部　孝雄	香川県土木　河川砂防課長
公文　洽夫	
林　重延	四国地方整備局河川部　河川情報管理官

●参与

参与名	
重本　誠司	徳島県県土整備部　河川振興課長
阿部　孝雄	香川県土木部　河川砂防課長
杉本　寧	愛媛県土木部　河川課長
吉本　祐二	高知県土木部　河川課長
林　重延	四国地方整備局河川部　河川情報管理官

２ウェイ通信

『緑のダム（水源の森）の再生・保全について』

愛媛県今治市長　菅　良二氏

今治市は、愛媛県の北東部に位置し、瀬戸内海式気候に属するため、年間降水量約千二百ミリメートルと年間を通じて雨が少なく、比較的温暖な地域です。

このような地域条件の中、平成六年の夏は全国的に平年の四～七割程度の降雨量しかなく、本市においても市制始まって以来という断水に追い込まれました。

この経験から、緑のダム（水源の森）の機能を再認識し、官民一体となって森林の育成、管理の機運が醸成されました。

本市におきましては水道事業会計に「水源の森基金」を設置し、ダム上流の約一万ヘクタール（内民有林約七千ヘクタール）におよぶ森林において、これを財源として平成十一年から二十三年までに民有林約六百八十ヘクタール、公有林約六十ヘクタールの除間伐を実施しました。

また、愛媛県においては、平成二十年度より二十六年度までの七年間に、水源かん養機能等を向上させ安定的な水資源の確保を目的として、土砂流出防止の谷止工等の設置、荒廃森林の本数調整伐等を組み合わせた森林整備事業を進めていきます。

今治市は、昭和四十八年に全国第一号の緑の少年団が誕生した場所で、緑を愛し、緑を守り育てる意識の高い地域であり、今治市森林管理事務所指導のもと「今治地方水と緑の懇話会」が平成十八年度から将来を担う小・中学生と枝落としや苗木の植栽作業を実施し、森林及び林業への理解を深める森林体験教室を毎年開き、多くの児童・生徒の参加を得ています。

さらに平成十九年度からは、愛媛県・今治市・企業の三者協働による企業の森づくりを実施し、市民や一般企業等が〝より良きパートナー（協働者）〟として参加、活動しやすい環境づくりに努めています。

今後も愛媛県、民間ボランティア、企業のご協力を得ながら、「水と緑」の源泉を守り育てて、緑のダム再生・保全に努めてまいりたいと考えております。

川の雑学

水が生み出した日本の食文化

水と料理は深い関係があり、水の性質によって料理の味が変わってきます。

料理の味を左右するのが水の硬度。水の中に含まれるミネラル類のうち、カルシウムとマグネシウムの含有量を示す値で、数値が低い水を軟水、高い水を硬水と呼びます。

日本のどの地域の水もほぼ軟水で、これは、日本の地形と関係しています。日本の河川は急勾配で、山に降った雨もすぐに海に流れ出て、地上に留まる時間が短いうえ、もともと火山地帯でミネラル分の少ない地層が多く、地中に含まれるミネラルを吸収しにくいという訳です。

軟水をたっぷり含んで炊きあがったご飯はふっくらモチモチ。硬水ではパサパサの原因がここにあります。ご飯に漬物で十分満足という御仁が多いのも頷けます。

軟水はだしを取るのにも適しており、かつおや昆布、しいたけの旨みを十分に引き出してくれます。吸い物や煮物など、日本ならではの食文化を生んだのも水が影響したと言えるのではないでしょうか。

編集室から

四国の川を考える会の広報誌「あめんぼ(国領川)」を掲載

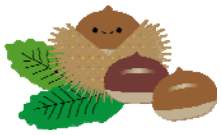
当会のホームページ上に、広報誌『あめんぼ』WEB版六号を掲載しています。

今回のピックアップ河川は、愛媛県の二級河川・国領川です。

是非、ご覧ください。

http://www.shikoku-river.net/amenbo/index.html

川の情報誌『あめんぼ』は、「四国の川を考える会」が四国の主な河川の紹介や川にまつわる話題やイベント、それに携わる人々にスポットを当て、より多くの人に四国の川をもっと知っていただくよう昭和五十九年から発行しています。



柿を収穫する際、全て採らずに一つだけ残しておく。

この柿を「木守り柿」といいます。

豊かな実りをもたらしてくれた柿の木への感謝の気持ちか、

次の年の実りを祈念しての神への貢物か、

されとも、お腹を空かした旅人への心配りなのか、

人の優しさがこもった「木守り柿」。

日本っていいなあ。

◇一般会員の募集について

当会では、会員の推薦により、随時会員を募集しています。勧誘・推薦をお願いします。

入会の申し込み用紙は事務局にありますので、電話等でご請求ください。

平成二十四年七月末現在の会員は、八十三名です。

◇お問い合わせ先

四国の川を考える会事務局
〒七六〇-〇〇六六
高松市福岡町三丁目十一番二十二号
TEL 090-8697-6166
FAX 087-845-0183